

| 資料1－3 | | | | | | | |
|---------|---------------------|--------------------------------------|--------------------------------|--|---|--|---|
| 施策番号 | 主要施策 | 基本施策 | 担当課 | 取組の方向性 | 3年度の取組結果 | 取組結果への対応 (3→4年度) | 関連数値目標 |
| 4-(1)-① | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (1)障害のある子どものライフステージを通じた一貫した療育支援体制の充実 | 児童家庭課 障害福祉事業課 | ① 疾病スクリーニングや支援手法に関する情報提供や研修等を行うことにより、市町村が実施する乳幼児健康診査の精度向上が図られるよう支援します。また、ライフステージを通じた一貫した支援が受けられよう、保護者の了解を得た上で関係機関が健診結果等の情報を共有し活用することや、ライフサポートファイルの導入や一層の活用について、市町村に働きかけるとともに、事業の実施状況や効果についても検証を行っていきます。 | ・ライフサポートファイル未導入の2市町に今後の導入予定等について状況確認を行いました。 ・母子保健従事者研修会において、乳幼児健診で精査が必要となる基本的な発達や早期発見のポイントについて研修会を行い、精度向上のために知識の普及を行いました。 ・新生児聴覚検査の体制整備事業としては、1歳6か月、3歳児健康診査における早期発見の意義やその後の支援について研修会を開催しました。 | ・今後も引き続き、未導入の市町に働きかけます。 引き続き、母子保健従事者研修会等を通じ、市町村が実施する乳幼児健康診査の精度管理を行う予定です。 | 4－6 ライフサポートファイルの実施市町村数 |
| 4-(1)-② | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (1)障害のある子どものライフステージを通じた一貫した療育支援体制の充実 | 障害福祉事業課 | ② 国の児童発達支援ガイドラインを参考にして、知的障害、視覚障害、聴覚障害、言語障害、肢体不自由、重症心身障害、発達障害、高次脳機能障害、難病等、障害特性に応じた療育支援の在り方についての検討を行います。 | ・療育支援コーディネーター等の参加による事例検討会の開催を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を見合わせました。 | ・療育支援コーディネーター等の参加による事例検討会が3年間できていないため、開催に向けて取り組んでいきます。 | |
| 4-(1)-③ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (1)障害のある子どものライフステージを通じた一貫した療育支援体制の充実 | 障害福祉事業課 | ③ 保護者や学校をはじめとする様々な関係者との連携や障害のある子どもの健全な育成を図る役割が期待される放課後等デイサービスについては、障害種別、障害特性や発達段階等に応じた支援を必要とする障害のある子どものニーズに的確に対応するため、障害のある子ども等に対する支援の経験を有する者等の配置を求めるとともに、サービス提供や運営体制等に関する事業所による自己評価及び保護者による評価の実施等により、事業所の支援の質の向上を図ります。 | ・放課後等デイサービス事業所に対し、サービス提供や運営体制等に関する自己評価等の実施を求めました。 | ・放課後等デイサービス事業所に対し、障害のある子ども等に対する支援の経験を有する者等の配置やサービス提供や運営体制等に関する自己評価の公表を求め、実施状況を確認します。 | 4－4 放課後等デイサービス事業所数 |
| 4-(1)-④ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (1)障害のある子どものライフステージを通じた一貫した療育支援体制の充実 | 障害福祉事業課 | ④ 保育所等訪問支援の現状について調査、把握し、本事業の一層の推進を図ることで障害のある子どもの地域社会への参加・包容を推進するとともに、児童発達支援センターを中核とした重層的な地域支援体制の構築を目指すため、令和5年度末までに、児童発達支援センターを各市町村又は各圏域に1箇所以上設置するよう、市町村に働きかけます。また、市町村等から、児童発達支援センターの設置に当たっての課題に関する意見を聴きながら、支援の在り方について検討します。 | ・保育所等訪問支援事業所は18事業所の増加となり、児童発達支援センターは未設置の市町村に1箇所の新規開設がありました。 | ・児童発達支援センターの開設の相談等ありますが、引き続き未設置の市町村に働きかけていきます。 | 4－1 児童発達支援センター設置市町村数 4－2 児童発達支援事業所数 4－3 医療型児童発達支援事業所数 4－5 保育所等訪問支援事業所数 |
| 4-(1)-⑤ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (1)障害のある子どものライフステージを通じた一貫した療育支援体制の充実 | 障害者福祉推進課 障害福祉事業課 特別支援教育課 | ⑤ 聴覚障害児を含む難聴児が適切な支援を受けられるよう、難聴児等の支援を行う県内の児童発達支援センターに対し、県立千葉聾学校が主催するきこえとことばの基礎講座への参加を促すことで、児童発達支援センターと特別支援学校の連携強化を図り、難聴児支援のための中核的機能を有する体制の確保を図ります。 また、視覚障害児についても、県内の児童発達支援センターに対し、千葉盲学校で随時実施している教育相談及び県内各地で実施する見え方相談会等への参加を促すことで、就学前から就学後まで切れ目のない支援体制の確保を図ります。 | ・聴覚障害児を含む難聴児が適切な支援を受けられるよう、難聴児等の支援を行う県内の児童発達支援センターに対し、県立千葉聾学校が主催するきこえとことばの基礎講座への参加を促し、児童発達支援センターと特別支援学校の連携強化を図り、難聴児支援のための中核的機能を有する体制の確保を図りました。 ・「きこえとことばの相談支援センター」として千葉聾学校が聴覚障害教育のセンター的機能を担い、「千葉県聴覚障害教育ネットワーク推進連絡協議会(うさぎネット)」の開催や教育相談、研修等をおし、各地区の聴覚に障害のある幼児児童生徒の専門的な指導や支援を行います。 ・千葉盲学校が視覚障害教育のセンター的機能を担い、「千葉県視覚障害教育ネットワーク推進連絡協議会(eyeあいねっと)」を開催して、各地区の視覚障害教育の現状と課題解決に向けて協議や教育相談等を行い、具体的な指導、支援を進めました。 | ・引き続き、難聴児支援のための中核的機能を有する体制の確保を図ります。 ・千葉聾学校がきこえとことばの相談支援センターとして、「千葉県聴覚障害教育ネットワーク推進連絡協議会(うさぎネット)」の開催や教育相談、研修等をおし、各地区の聴覚に障害のある幼児児童生徒の専門的な指導や支援を行います。 ・千葉盲学校が視覚支援センターとして、「千葉県視覚障害教育ネットワーク推進連絡協議会(eyeあいねっと)」の開催や教育相談、研修等をおし、各地区の見えにくさのある幼児児童生徒への専門的な指導や支援を行います。 | |
| 4-(2)-① | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (2)障害のある子どもと家族への在宅支援機能の強化 | 障害福祉事業課 | ① 障害のある子どもが、できる限り自宅や住み慣れた地域で生活し、また、短期入所事業所を利用して家族のレスパイトや緊急時に対応できるよう、事業所の現状を調査、把握し、在宅支援の環境整備に努めます。 また、強度行動障害のある子どもを受け入れる短期入所事業所の拡充が図られるよう検討します。 さらに、医療的ケア児等が介護老人保健施設の空床を短期入所事業所として利用できるよう施設に働きかけます。 | ・強度行動障害のある子どもを受け入れる短期入所事業所の拡充が図られるよう、事業所指定申請に対する速やかな指定手続きに努めました。 | ・引き続き、強度行動障害のある子どもを受け入れる短期入所事業所の拡充が図られるよう、事業所指定申請に対する速やかな指定手続きに努めます。 | 4－7 短期入所事業所数(障害のある子どもを受け入れる事業所) |
| 4-(2)-② | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (2)障害のある子どもと家族への在宅支援機能の強化 | 障害福祉事業課 | ② ホームヘルプ、訪問看護など、在宅生活を支える訪問系サービスの充実が図られるよう、また、比較的軽度な障害の子どもでもニーズに沿ったサービスが受けられるよう、市町村に働きかけます。 | ・障害児等療育支援事業により訪問による相談及び療育指導を実施しました。 | ・引き続き、障害児等療育支援事業を推進します。 | 4－8 居宅介護事業所数(障害のある子どもを受け入れる事業所) |
| 4-(2)-③ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (2)障害のある子どもと家族への在宅支援機能の強化 | 健康福祉政策課 障害福祉事業課 | ③ 在宅医療機関等が、医療的ケアを必要とする子ども等にも対応できるよう、医師、看護師、歯科医師、歯科衛生士等医療関係者の一層のスキルアップに取り組みます。 | ・NICU等所属看護師等を対象とした、在宅移行に必要な専門的知識の取得、スキルアップを目的とする研修を企画したが、応募がなかったため実施しませんでした。 | ・引き続き、NICUに勤務する看護師等を対象とした研修を企画し、実施する方向で調整します。 | |
| 4-(2)-④ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (2)障害のある子どもと家族への在宅支援機能の強化 | 障害福祉事業課 | ④ 発達障害のある子ども等が可能な限り身近な地域で必要な支援が受けられるよう、千葉県発達障害者支援センター(CAS)を拠点として、市町村・事業所等のバックアップや専門性の高い人材の養成を目的とした研修等を行うとともに、地域支援マネジャーの配置などを含めた地域支援機能の強化等について、発達障害者支援地域協議会において検討を行います。 | 県発達障害者支援センターにて各種研修や講座を行いました。 | 引き続き、県発達障害者支援センターにて各種研修や講座を行うとともに、発達障害者支援地域協議会を開催し地域支援機能の強化等について検討を行う予定です。 | |

第七次千葉県障害者計画 取組の方向性 進捗状況管理表

| 施策番号 | 主要施策 | 基本施策 | 担当課 | 取組の方向性 | 3年度の取組結果 | 取組結果への対応 (3→4年度) | 関連数値目標 |
|---------|---------------------|---------------------------|---------|--|--|--|--|
| 4-(2)-⑤ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (2)障害のある子どもと家族への在宅支援機能の強化 | 障害福祉事業課 | ⑤ 発達障害やその疑いのある子どもの保護者を対象とした子どもとの接し方や育て方についてのペアレントトレーニングを実施する地域自立支援協議会や児童発達支援センター等に対し、千葉県発達障害者支援センター(CAS)が支援することにより、親の療育技術の向上やストレスの軽減等を図ります。 | 地域自立支援協議会や児童発達支援センター等に対し、ペアレントトレーニングに係る支援を行いました。 | 引き続き、地域自立支援協議会や児童発達支援センター等に対し、ペアレントトレーニングに係る支援を行います。 | |
| 4-(2)-⑥ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (2)障害のある子どもと家族への在宅支援機能の強化 | 障害福祉事業課 | ⑥ 早期診断、適切な治療や訓練、相談支援を実施する障害児等療育支援事業を推進し、障害のある子どもやその家族の福祉の向上を図ります。 | ・令和2年度より2箇所多い57箇所の事業所等に委託し、事業を実施しました。 | ・引き続き、障害児等療育支援事業を推進します。 | |
| 4-(3)-① | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (3)地域における相談支援体制の充実 | 障害福祉事業課 | ① 障害のある人や障害のある子どもを受け入れる通所・入所施設の有する機能を活用し、在宅の障害のある子どもや障害の可能性のある子どもを支援するとともに、保育所、幼稚園等の職員に対し、療育に関する技術指導を行うため、障害児等療育支援事業を推進します。また、発達障害等に関する知識を有する専門員が、保育所や放課後児童クラブ等の子どもやその保護者が集まる施設・場への巡回等を実施し、施設等の支援を担当する職員や障害のある子どもの保護者に対し、障害の早期発見、早期対応のための助言等の支援を行う巡回支援専門員整備事業の実施について、市町村に働きかけます。 | ・令和2年度より2箇所多い57箇所の事業所等に委託し、事業を実施しました。 | ・引き続き、障害児等療育支援事業を推進します。 | 4-9 障害児等療育支援事業実施見込箇所数 |
| 4-(3)-② | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (3)地域における相談支援体制の充実 | 障害福祉事業課 | ② 在宅の障害のある子どもに対して各々の特性に応じた療育支援を提供できるよう、医療・保健・福祉・教育関連機関の連携を調整する療育支援コーディネーターについて、地域生活支援事業を活用して市町村に配置するよう促します。 また、複数の市町村が圏域単位で配置する場合は助成額を上乗せするなど、広域での活動を促します。 さらに、情報交換等のため、関係市町村等も含めた療育支援コーディネーター連絡協議会を開催します。 | ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、療育支援コーディネーター連絡協議会の開催を見合わせました。 | ・療育支援コーディネーターの設置について、市町村に働きかけるとともに、情報交換等のため、関係市町村等も含めた療育支援コーディネーター連絡会議を開催します。 | 4-10 療育支援コーディネーターの配置人数 |
| 4-(3)-③ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (3)地域における相談支援体制の充実 | 障害福祉事業課 | ③ 発達障害やその疑いのある子どもを育てる親が安心して子育てができるよう、発達障害のある子どもを育てた経験のある親を世代が偏らないように留意しながらペアレントメンターとして登録し、千葉県発達障害者支援センター(CAS)と連携して、親の会などの場で相談・助言を行います。あわせて、ペアレントメンターの周知を図ります。 また、ペアレントメンターに対してのフォローアップ研修会の開催や家族とペアレントメンターを結び付けるペアレントメンターコーディネーターを配置し、発達障害のある子どもを持つ親への支援を実施します。 | ・県発達障害者支援センターにて各種研修や講座を行いました。 | ・引き続き、県発達障害者支援センターにて各種研修や講座を行うとともに、発達障害者支援地域協議会を開催し地域支援機能の強化等について検討を行う予定です。 | |
| 4-(3)-④ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (3)地域における相談支援体制の充実 | 障害福祉事業課 | ④ 相談支援専門員、療育支援コーディネーターや児童発達支援センターの職員を対象として、教育機関等との連携も含めた、障害児支援に関する総合的なコーディネートやアセスメントに関する知識や技術を向上させるための研修を検討します。 | ・地域自立支援協議会や児童発達支援センター等に対し、ペアレントトレーニングに係る支援を行いました。 | ・引き続き、地域自立支援協議会や児童発達支援センター等に対し、ペアレントトレーニングに係る支援を行います。 | |
| 4-(4)-① | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (4)障害のある子どもへの医療・福祉サービスの充実 | 障害福祉事業課 | ① 医療的ケアが必要な子どもが適切な支援を受けられるように、令和5年度末までに、各市町村又は圏域において、保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関等の連携を図るための協議の場が設置されるよう、その取組をモデル化し、周知するなどして、設置及び活用を働きかけます。 また、千葉県医療的ケア児等支援地域協議会において、全県的な課題を分析し、必要な対応を検討します。 | ・令和2年度に実施したモデル化の取組みを周知するとともに、市町村や圏域で協議の場の設置・活性化されるよう働きかけました。 | ・令和4年度に開設する医療的ケア児等支援センターでは、協議の場の設置促進・活性化について情報提供や助言等を行います。 | 4-11 医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置市町村数 |
| 4-(4)-② | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (4)障害のある子どもへの医療・福祉サービスの充実 | 障害福祉事業課 | ② 発達障害の早期発見、早期支援の重要性に鑑み、身近な地域において一定水準の診療や対応が可能となるよう、かかりつけ医等の養成の在り方について検討します。 | ・医療機関を対象とした研修を実施したが、かかりつけ医等の養成の在り方についてまでの検討を行っていません。 | ・かかりつけ医等の養成の在り方について検討を開始する予定です。 | |
| 4-(4)-③ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (4)障害のある子どもへの医療・福祉サービスの充実 | 障害福祉事業課 | ③ 重症心身障害の状態にある子どもが身近な地域で支援を受けられるように、主に重症心身障害の状態にある子どもを支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所を各市町村又は各圏域に1箇所以上確保するよう、市町村に働きかけます。また、市町村等から、重症心身障害の状態にある子どもを支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の確保に当たっての課題に関する意見を聴きながら、支援の在り方について検討します。 | ・主に重症心身障害の状態にある子どもを支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所を各市町村または各圏域に1箇所以上確保するよう、市町村に働きかけました。 | ・引き続き、主に重症心身障害者の状態にある子どもを支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所を各市町村または各圏域に1箇所以上確保するよう、市町村に働きかけます。 | 4-12 主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所数 4-13 主に重症心身障害児を支援する放課後等デイサービス事業所数 |
| 4-(4)-④ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (4)障害のある子どもへの医療・福祉サービスの充実 | 障害福祉事業課 | ④ 医療的ケアが必要な子どもが在宅で医療や福祉のサービスを受けられるよう、訪問看護師の育成研修を行うほか、市町村における保健、医療、福祉、教育等の関連分野の支援を調整するコーディネーターを育成し、配置を働きかけます。 | ・医療的ケア児等を支援する訪問看護師及び看護師等研修を実施し、63名が受講しました。 ・医療的ケア児等コーディネーター養成研修を実施し62名が受講しました。 ・医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターが34名配置されました。 | ・医療的ケアに対応可能な支援者の人材育成研修を行うほか、医療的ケア児等コーディネーターの資質向上を図るための研修を実施します。 ・引き続き、市町村あるいは圏域での医療的ケア児等コーディネーター配置について働きかけます。 | 4-14 医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置人数 |
| 4-(4)-⑤ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (4)障害のある子どもへの医療・福祉サービスの充実 | 障害福祉事業課 | ⑤ 重症心身障害や医療的ケアが必要な子ども等の支援に関して、ニーズや地域資源の状況を踏まえ、保健、医療、福祉、教育等の連携の一層の推進を図ります。 また、医療型障害児入所施設や強度行動障害のある子どもに対応する施設の支援の充実を図るとともに、施設の役割や施設が設置されていない地域における在宅支援の在り方を検討します。 特に、県南部など地域資源の十分でない地域におけるサービス提供の在り方を検討し、その充実を働きかけていきます。 | ・千葉県医療的ケア児等支援地域協議会等において、在宅支援の在り方について検討しました。 | ・引き続き、千葉県医療的ケア児等支援地域協議会等において、在宅支援のあり方等について検討します。 | 4-15 障害児入所施設数 4-16 福祉型障害児入所施設入所定員 4-17 医療型障害児入所施設入所定員 |

第七次千葉県障害者計画 取組の方向性 進捗状況管理表

| 施策番号 | 主要施策 | 基本施策 | 担当課 | 取組の方向性 | 3年度の取組結果 | 取組結果への対応 (3→4年度) | 関連数値目標 |
|---------|---------------------|-------------------------------------|-------------------|--|--|---|--|
| 4-(4)-⑥ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (4)障害のある子どもへの医療・福祉サービスの充実 | 障害福祉事業課 | ⑥ 重症心身障害の状態にある子ども等が入所する千葉県千葉リハビリテーションセンターについて、令和元年度に策定した「千葉県千葉リハビリテーションセンター施設整備に係る基本計画」を踏まえ、県民ニーズに対応できる施設の整備に取り組みます。 | ・令和2年度に着手した施設の建築・電気設備・機械設備の基本設計を令和3年12月に完成させました。 ・引き続き、基本設計に基づいて設計意図をより詳細に明確化し成果図書を作成するために必要な実施設計業務に着手しました。 | ・令和5年度の工事着手に向け、引き続き施設の建築・電気設備・機械設備の実施設計やその他必要な手続を進めていきます。 | |
| 4-(4)-⑦ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (4)障害のある子どもへの医療・福祉サービスの充実 | 障害福祉事業課 | ⑦ 在宅の強度行動障害のある子どもの支援については、短期入所事業所などの利用により家族の負担を和らげ、相談支援専門員が身近な地域の医療、保健、福祉、教育等関係機関の連携を調整し、さらに千葉県発達障害者支援センター(CAS)や「強度行動障害のある方の支援者に対する研修事業」で育成した人材の活用等の地域支援体制の在り方について検討します。 | ・短期入所事業所などの利用や、相談支援専門員による地域の医療、保健、福祉、教育等関係機関の連携の調整、研修事業で育成した人材の活用等の地域支援体制の在り方について検討しました。 ・「強度行動障害のある方の支援者に対する研修」を実施し、コロナ感染対策のためオンラインでの研修を取り入れつつ、14名を育成しました。 ・地域支援体制の在り方について検討を行っていません。 | ・引き続き、短期入所事業所などの利用や、相談支援専門員による地域の医療、保健、福祉、教育等関係機関の連携の調整、研修事業で育成した人材の活用等の地域支援体制の在り方について検討します。 ・当該研修の修了者の活用を図るため、行動障害者支援サポーターとして登録し、希望する事業所に派遣を行い、指導・助言を行います。 ・地域生活支援拠点の整備等の中で、地域支援体制の在り方について検討を行います。 | |
| 4-(4)-⑧ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (4)障害のある子どもへの医療・福祉サービスの充実 | 子育て支援課 障害福祉事業課 | ⑧ 障害のある子どもが円滑に保育利用できるようにするため、優先利用の基本的な考え方を周知し、市町村の利用調整における「子どもが障害を有する場合」の優先度について、検討・運用を促します。 | ・市町村担当者会議(書面開催)で資料配布により周知を行いました。 | ・引き続き、市町村担当者会議(web開催)で周知を行います。 | |
| 4-(5)-① | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ① 障害のある子どもへの一貫した教育相談と支援体制を充実させるため、関係者・関係機関の円滑な連携を確かなものとするネットワークの構築を図るとともに、その活用と支援体制の充実に努めます。 | ・障害のある児童生徒の就学後の一貫した支援を図るために、専門家から意見聴取や助言を得る機会を設け、関係機関と連携した教育相談と支援体制を構築しました。 | ・引き続き、関係機関と連携して教育相談と支援体制の構築とさらなる連携を図っていきます。 | |
| 4-(5)-② | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ② 幼稚園等において、支援が必要な就学前の幼児に対する「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成に関し、特別支援学校が協力を行うなど適切な就学の支援を行います。また、関係機関のネットワークを活用しながら、きめ細かな就学相談、就学事務に努めます。 | ・特別支援教育コーディネーター研修会はWEBで、公立の幼稚園・幼保連携型認定こども園特別支援教育コーディネーター研修会は資料配付にて実施しました。発達障害についてや、「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成と活用について説明、理解の推進と周知をしました。 | ・特別支援教育コーディネーターとしての経験が浅い職員もいるため、特別支援教育コーディネーター研修会や公立の幼稚園・幼保連携型認定こども園特別支援教育コーディネーター研修会、総合教育センター主催の特別支援教育に関する研修等において、「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成と活用に関する研修を継続し、理解の促進を図ります。 | |
| 4-(5)-③ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ③ 障害のある子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立して社会参加するとともに、地域社会の中で積極的に活動し、その一員として豊かに生きることができるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校など連続性のある「多様な学びの場」の整備と、一人一人の子どもがその力を発揮できる取組の充実に努めます。また、特別支援学校による通級による指導の機能の拡大を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた支援が地域で受けられるように努めます。 | ・進級時や進学の際に、個別的教育支援計画及び個別の指導計画の活用を推進し、研修等を通じて、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校など連続性のある多様な学びの場の充実に努めました。 | ・個別的教育支援計画及び個別の指導計画の活用を更に進めるとともに、各園・学校教職員の研修を推進し、多様な学びの場の充実に努めます。 ・地域の学校や関係機関と連携しながら、特別支援学校のセンター的機能の充実に努めます。 | |
| 4-(5)-④ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ④ 特別支援学校と近隣の小・中学校等の幼児児童生徒との交流及び共同学習を促進するとともに、地域の人々が障害のある子どもたちへの理解を深める啓発活動などの取組を一層進めていきます。 | ・各学校において、交流及び共同学習(居住地校交流・学校間交流)を継続して学校の教育活動に位置付けております。また、特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業により、近隣の小中高等学校及び地域へ障害者スポーツの体験会、用具の貸出しや出前授業を行いました。 | ・引き続き、交流及び共同学習を計画的に実施し、バラスポーツ推進事業等を活用し、地域における障害のある子どもたちの理解、啓発を図ります。 | |
| 4-(5)-⑤ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ⑤ 一人一人の障害特性と教育的ニーズに応じて決定される合理的配慮と、その合理的配慮を実現していくための基礎となる教育環境の充実に努めます。 | ・高等学校特別支援教育コーディネーター連絡会において、合理的配慮の提供について理解を深めました。 ・各学校等で保護者に対し、合理的配慮の提供について情報提供を行いました。 | ・引き続き、各学校等の特別支援教育コーディネーター研修会において合理的配慮についての研修を行い、理解を深めていきます。また、各学校等で保護者に対し、合理的配慮の提供について情報提供を行います。合理的配慮事例集の活用を推進していきます。 | |
| 4-(5)-⑥ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ⑥ 特別支援アドバイザーや特別支援教育支援員の配置による小・中学校や高等学校等への支援の充実に努めるとともに、特別支援学校に専門性の高い外部人材を配置し、地域内の小・中学校等に対するセンター的機能の充実に取り組みます。 | ・特別支援アドバイザー21名を各教育事務所に配置しました。また、今年度も昨年度に引き続き、4月限定派遣を実施しました。、特別支援学級新担任や通級指導教室新担当、特別支援教育の経験年数の浅い担任を対象に、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒への指導・支援の在り方などについて、助言・援助を行いました。 ・高等学校の全日制に支援員の配置や専門家チームの派遣を行いました。 | ・引き続き、特別支援アドバイザーを配置します。4月限定派遣も継続し、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒への指導・支援の在り方などについて、助言・援助を行います。 ・専門家チームの派遣については、高等学校に加えて市町村教育委員会からの要請にも応じることで、発達障害を含む幼児児童生徒への望ましい教育的対応等について専門的な意見の提示や助言を行っています。 | 4-20特別支援教育に関する教員研修受講率 4-21特別支援学校教員の特別支援学校教諭免許状保有率 4-22特別支援学校のセンター的機能を主として担当する分掌・組織の設置率 |
| 4-(5)-⑦ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ⑦ 幼稚園、小・中学校、高等学校及び特別支援学校等と保健・医療・福祉などの関係機関との連携の充実に努めるとともに、不適応の個別のケースについて、利用する児童発達支援や放課後等デイサービスと情報を共有し、専門性が高い相談機関や児童発達支援センターなど関係機関と連携して解決を図ります。 | ・一人一人の教育ニーズに応じた支援の充実に努めるため、県立特別支援学校のセンター的機能の活用、特別支援アドバイザーの派遣、高等学校における特別支援教育支援員の配置や専門家チームの派遣等を実施しました。 | ・引き続き、県立特別支援学校のセンター的機能の充実に努めることや、特別支援アドバイザー派遣、高等学校における特別支援教育支援員の配置や専門家チーム派遣等を進め、一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実に努めます。 | |
| 4-(5)-⑧ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ⑧ 障害のある児童生徒の情報活用能力を育成するため、教育用コンピュータの整備・更新を進めます。また、学習効果を高める観点からICTを活用した遠隔教育について、指導方法の開発や教育効果等の調査研究を実施し、障害の特性に応じた指導の充実やICTを活用した教育の普及促進を図ります。 | ・情報教育連絡協議会を2回開催し、学習活動におけるICT機器の活用推進を図りました。 | ・情報教育連絡会等を活用し、ICT機器を活用した授業の推進を図ります。 ・各特別支援学校へのICT機器の配備を推進します。 | |

第七次千葉県障害者計画 取組の方向性 進捗状況管理表

| 施策番号 | 主要施策 | 基本施策 | 担当課 | 取組の方向性 | 3年度の取組結果 | 取組結果への対応 (3→4年度) | 関連数値目標 |
|---------|---------------------|-------------------------------------|------------------|---|---|--|--|
| 4-(5)-⑨ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ⑨ 幼稚園、小・中学校及び高等学校等における個別的教育支援計画や個別の指導計画の作成と活用を一層進めるとともに、学校における特別支援教育コーディネーターの資質の向上を図り、また、コーディネーターとして複数の教員を指名できるように努めるなど、校内支援体制の充実に図ります。 | ・公立の幼稚園・幼保連携型認定こども園特別支援教育コーディネーター研修会や、市町村教育委員会就学事務担当者研修会において、健康福祉部障害福祉事業課と連携し、トライアングルプロジェクトを踏まえた家庭・教育・福祉との連携について理解を図りました。 | ・今年度も、各種研修会において、健康福祉部障害福祉事業課と連携し、トライアングルプロジェクトを踏まえた家庭・教育・福祉との連携について理解の促進を図ります。 | 4-18 幼・小・中・高等学校等において、園・学校が個別の指導計画の作成を必要と思う児童等のうち、実際に個別の指導計画が引継ぎに活用された児童等の割合 4-19 幼・小・中・高等学校等において、園・学校が個別的教育支援計画の作成を必要と思う児童等のうち、実際に個別の指導計画が引継ぎに活用された児童等の割合 |
| 4-(5)-⑩ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 児童生徒安全課 | ⑩ いじめ問題や不登校については、学校や家庭、教育委員会と児童相談所等の関係機関との連携や、千葉県子どもと親のサポートセンターや千葉県総合教育センターなどの相談機関との連携により支援の充実に図ります。 | ・発達障害の可能性がある児童生徒や合理的配慮を要する児童生徒、他の児童生徒より周囲の音や光などの環境に対して、より敏感に反応してしまう児童生徒への対応を含め、いじめ問題や不登校等の課題を抱える児童生徒への対応について、教職員を対象に、複数の学校種の情報共有を踏まえた、生徒指導推進研究協議会や、いじめ防止対策、自殺防止対策に関する研修を実施しました。 ・子どもと親のサポートセンターや関係機関等と連携し、研修の充実や「不登校児童生徒支援チーム」を活用した取り組みの充実に努めました。 | ・発達障害の可能性がある児童生徒や合理的配慮を要する児童生徒、他の児童生徒より周囲の音や光などの環境に対して、より敏感に反応してしまう児童生徒への対応を含め、生徒指導上の諸課題を抱える児童生徒への学校の対応力向上のため、関係機関等と連携し、その専門的知識の活用を推進するとともに、管理職、中堅教諭、若手教諭など、様々な年代の教職員等の研修の充実に努めます。 | |
| 4-(5)-⑪ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ⑪ 特別支援学校に在籍する医療的ケアの必要な児童生徒に対し、安全で確実な支援ができるよう、担当する教員及び特別非常勤講師(看護師)への研修を充実します。また、強度行動障害、精神疾患、高次脳機能障害、嚥下障害、その他様々な事情で学習や生活に著しい困難を抱える児童生徒への適切な支援の充実に図ります。 また、特別支援学校への通学が困難な児童・生徒に対して、ICTを活用した遠隔教育や訪問教育の充実に努めます。 | ・安全で確実な医療的ケアの実施に向け、看護師研修及び医療的ケア基本研修を実施しました。特に看護師研修会では、緊急時対応や医療機器の扱い等について、実技研修を充実しました。また、特別非常勤講師配置事業により、児童生徒の障害の重度・重複化に対する教員の専門性の向上を図りました。 | ・引き続き、医療的ケアが必要な児童生徒に対しての、安全で確実な医療的ケアの実施に向け、医療的ケア基本研修及び看護師研修を実施します。また、特別非常勤講師配置事業を実施し、看護師並びに教員等の専門性向上を目指します。特に、人工呼吸器、排痰補助装置等、高度な医療機器に関する専門性を身に付けることができるよう研修内容を工夫します。 | |
| 4-(5)-⑫ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 学習指導課 | ⑫ 障害のある生徒の県立高等学校の入学者選抜に当たっては、障害があることにより、不利益な取扱いをすることのないよう十分に留意します。 | ・校長会議・教頭会議等で障害があることにより、不利益な取扱いをすることのないよう説明しました。 ・障害があることにより、不利益な取扱いをすることのないよう実施要項に明記しました。 ・定員遵守についての通知文を各学校に発出しました。 ・入学者選抜で、200を超える特別配慮を実施しました。 | ・校長会議や実施要項をおとして、障害があることにより不利益な取扱いをすることのないよう、引き続き周知します。 ・入学者選抜の公平さが保たれ、実施可能な配慮について、引き続き特別配慮を実施します。 | |
| 4-(5)-⑬ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 教育施設課 特別支援教育課 | ⑬ 特別支援学校の過密の状況、児童生徒数の動向などを踏まえ、「第2次県立特別支援学校整備計画」等により、計画的に整備を進めていきます。 | ・柏特別支援学校高等部分離による新設校工事、桜が丘特別支援学校教室棟増築工事を行いました。 ・市原特別支援学校、松戸特別支援学校の通学区域の調整を行いました。 ・「第2次県立特別支援学校整備計画」の成果と課題を受け、新たに「第3次県立特別支援学校整備計画」を策定しました。 ・昨年度に引き続き、通学用スクールバスについて、道路状況や児童生徒の居住地、運行時間などを総合的に検討した上で、運行しました。 ・新型コロナウイルス感染症リスクの低減を図るため、小型バスを追加配置し、乗車人員を分散させ、乗車率を下げる取組を行いました。 令和3年度は、東葛の森特別支援学校の新設、桜が丘特別支援学校の増築を行いました。 | ・「第3次県立特別支援学校整備計画」(令和4年3月策定)に基づき、引き続き過密状況に対応していきます。 ・通学用スクールバスについて、道路状況や児童生徒の居住地、運行時間等を総合的に検討した上で、運行します。 ・引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染リスク軽減を図るため、小型バスを追加配置し、乗車人数を分散させ、乗車率を下げる取組を行っています。 ・引き続き、「第2次県立特別支援学校整備計画」等により、計画的に整備を進めていきます。 | |
| 4-(5)-⑭ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ⑭ 高等学校や特別支援学校の卒業後の進路について、適切なアセスメントに基づく個別の移行支援計画の作成と活用を図り、障害者就業・生活支援センターをはじめとする福祉や医療、高等教育、労働関係機関と連携し、地域資源を活用した支援の充実に図ります。 | ・進路指導主事及び就労支援コーディネーター連絡協議会を年3回開催し、障害者就業・生活支援センター等との連携を図りました。 ・特別支援学校教員企業研修について、14箇所の企業等で教員18人が実施しました。 企業と特別支援学校をつなぐセミナーは、全6地区のうち3地区が開催しました。 | ・障害者就業・生活支援センター等の関係機関と連携しながら、卒業後の生活を見据えた指導や就労支援等の充実に図ります。特別支援学校教員企業研修、企業と特別支援学校をつなぐセミナーを実施し、労働関係機関との連携を図ります。 | |
| 4-(5)-⑮ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 特別支援教育課 | ⑮ 「多様な学びの場」を実現していくために、全ての教員に特別支援教育に関する基礎的な知識・技能の向上が求められるとともに、特別支援学校では特別支援教育のセンター的機能を発揮するための教員の専門性が必要なことから、特別支援学校教諭免許状の取得や、特別支援教育に関する研修の充実に図ります。あわせて、特別支援学級、通級による指導の担当者の専門性の向上を図るために、特別支援学校教諭免許状の取得率の向上に努めます。 | ・特別支援学校教育課程協議会を実施し、学習指導要領の方向性を再確認することで、各校の教育課程編成の充実に図りました。指導訪問を行い、学習指導要領の要点について説明を行いました。また、教育課題の調査研究を行う研究指定校を指定し、研究成果を周知しました。 | ・引き続き、特別支援学校教育課程協議会等の機会を通じて、学習指導要領を踏まえた教育課程の編成の実施について周知を図っていきます。また、教育課題の調査研究を行う研究指定校の指定も行い、研究を進めます。 | 4-21 特別支援学校教員の特別支援学校教諭免許状保有率 4-23 特別支援学校のセンター的機能を主として担当する分掌・組織の設置率 |

| 施策番号 | 主要施策 | 基本施策 | 担当課 | 取組の方向性 | 3年度の取組結果 | 取組結果への対応 (3→4年度) | 関連数値目標 |
|---------|---------------------|-------------------------------------|-------------------|---|---|---|------------------------|
| 4-(5)-⑩ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 子育て支援課 特別支援教育課 | ⑩ 幼稚園、小・中学校及び高等学校等において、通常の学級担任をはじめ全教職員の障害の理解促進、障害等へのアセスメントや学校・学級経営、関係機関との連携などのマネジメント能力の向上、障害のある児童生徒への対応など、特別な教育的ニーズに応じた指導力を高めるため、研修の充実を図るとともに、保育所、認定こども園、放課後児童クラブ等においても障害児保育に関する研修の充実を図ります。 | ・幼稚園等の特別支援教育コーディネーター研修会では、感染症予防のため、開催方法を変更し、県総合教育センター幼児教育アドバイザーが作成した講義資料「発達障害のある園児の理解と指導、保護者との関わり方について」を配付しました。また、研修生の実践レポートに対して特別支援アドバイザーによる助言や援助の方法を記載したコメントを送付し、特別支援教育の理解を深めました。 ・放課後児童支援員認定資格研修において、「障害のある子どもの理解」をテーマに実施しました。 ・放課後児童支援員資質向上研修において、「発達障害児など配慮を必要とする子どもの理解と具体的対応」をテーマに実施しました。 | ・引き続き、幼稚園等の特別支援教育コーディネーター研修会は、総合教育センターの幼児教育アドバイザーを講師として実施し、障害のある幼児への対応や支援についての理解を促進します。 ・引き続き・放課後児童支援員認定資格研修において、「障害のある子どもの理解」をテーマに実施します。 ・引き続き放課後児童支援員資質向上研修において、「発達障害児など配慮を必要とする子どもへの支援」をテーマに実施します。 | 4－20 特別支援教育に関する校内研修実施率 |
| 4-(5)-⑪ | 4障害のある子どもの療育支援体制の充実 | (5)障害のある子ども一人一人が十分に教育を受けられるための取組の充実 | 障害福祉事業課 | ⑪ 特別支援学校等への通学に関する状況を調査、把握し、あわせて、移動支援については、福祉施策と教育施策との連携の在り方を検討します。 | ・通学における移動支援の主体の明確化や、自宅からスクールバス乗降場所までの移動支援に対する支援などについて、国へ要望しました。 | ・引き続き、通学における移動支援の主体の明確化や、自宅からスクールバス乗降場所までの移動支援に対する支援などについて、国へ要望します。 | |